

鐘樓堂落慶記念



平成19年6月17日

浄土宗

成道山 正樹院

落慶式を迎えるにあたり

正樹院第二十八世
澤 譽 栄 規

聖号十念

江戸末期から明治初期頃に建てられたであろう、旧鐘楼。基壇表面の石が所々崩れ、一部には亀裂が入り、柱の下にあたる部分の陥没等、老朽化の波は近年とても大きくなっておりました。躯体の杉材も永い間の風雪に耐えてはいたものの、枯れ枝のように頼りなく、大きな地震等に遇えば倒壊する恐れがある事は容易に想像できました。

事故が起こってからでは遅いと、総代さん方も快く再建に同意くださり、設計にあたって専門の方々から話を伺うにつれ、折角建てるなら後世何百年と大切にされるような鐘楼を建立したいと願うようになりました。

そんな折り、数社からの建設計画の提案を受けた中で、吉匠建築工芸、吉川輔良棟梁の鐘楼再建への意気込み・意匠が当山の願いと合致。勝縁を結ばせて頂き、地元埼玉県産の樺材という良質な材料にも恵まれ、古くから伝承される社寺建築の知識・技術を遺憾なく発揮されて、無事竣工落慶となりました事、言葉では言い尽くせないほど感謝の気持ちで一杯でございます。想像以上の出来映えに、多くの方から「大変素晴らしい鐘楼ができましたね」とのお言葉も頂戴し、正樹院の宝として、後世に自信をもって伝え残せる鐘楼堂が完成致しました。

今回の再建工事に際し、お世話になった多くの方々に心からお礼申しあげ、落慶のご挨拶とさせていただきます。

合 掌



正樹院鐘樓堂落慶までの軌跡

株式会社 吉匠建築工芸
棟梁 吉川 輔良

この度、正樹院鐘樓堂の落慶式にあたり、御住職ならびに檀信徒の皆様方におかれましては大変おめでとうございます。施工者としてもこの上ない慶びであり、心よりお祝いを申し上げます。

さて、ここに当鐘樓堂落慶までの軌跡について少し御説明させていただきたいと思っております。

思い起こせば平成17年秋、初めて正樹院様とのご縁を頂き、鐘樓堂再建の話を行いました。御住職の望まれる鐘樓堂はどのようなものなのか、いろいろ話をさせて頂き、大仏様式（鎌倉時代東大寺再建に採用した宋様式）を採り入れた設計をご提案させて頂きました。なぜならば、毎年大晦日にNHKのテレビ中継「除夜の鐘」でお馴染みの、浄土宗総本山知恩院鐘樓堂が、この大仏様式を採り入れた構造意匠になっている事から、規模は小さいながらも、様式的にとっても価値のあるこの様式を基本とした鐘樓堂が、正樹院様に最もふさわしいと考えたからです。



知恩院鐘樓堂桁下の構造



正樹院鐘樓の地覆木鼻

左の写真でもおわかりの通り、大仏様は、木鼻部分などの繰り型に特徴があり、柱上下の木鼻にも同様な形を採用して納めています。構造的にも豪快な手法で、東大寺鐘樓堂(国宝)が大仏様の遺構として現存しております。このような意匠を、大変意義のあるものと正樹院様に御理解頂き、数多い業者のなかより御指名を頂きました事、今でも大変嬉しく感じております。

平成18年新春、まずは構造材の木寄せを順次始めました。柱、地覆、貫に使う樺材、そして桁上に使う檜材、野物材と順調に揃える事ができ、特に樺材は地元埼玉県産のものを用いて、気候になじむ材を使用し、約半年間掛けて入念に切組加工をいたしました。平成18年12月、いよいよ建て方が始まり、12月16日の大安吉日、厳粛に上棟の儀を挙げる事ができ、大変感激いたしました。年が明け、平成19年1月より始まった屋根工事(銅板工事・棟の瓦工事)では、今回特に鬼瓦へ篋書（焼く前の瓦に篋で祈願文などを記す事）をする為、奈良県天理市の大和瓦まで御住職に出向いただきました。鬼瓦の側面をよく見ると、篋書での文字が読み取れると思いますので、是非ご覧頂けたらと存じます。基壇上床仕上げの左官工事では、大磯洗い出しという技法を用いました。最近ではあまり使われない仕上げ方で、高度な左官技術を要す技法でもあります。きれいな二分～三分の玉砂利の混じった仕上がりが特徴で、御影石とも調和が取れ、大変良い仕上がりとなりました。

いよいよ梵鐘も吊り終え、落慶・撞き初め式の運びとなり、この良き日を迎えました。御住職そして檀信徒の皆様、誠におめでとうございます。また、この鐘樓堂再建工事にたくさんの方々の御尽力を頂きました事、心より御礼申しあげます。

正樹院鐘樓堂再建の記録

- 平成17年 6月 4日 正樹院役員会にて旧鐘樓老朽化問題の対応検討
- 8月 19日 総代会にて旧鐘樓を建て替える事に決定
- 10月 15日 総代会にて見積もり合わせ（5社）により吉匠建築工藝に決定
- 12月 26日 吉匠建築工藝と工事契約締結
- 12月 31日 除夜の鐘お休み
- 平成18年 2月 13日 旧鐘樓解体工事
- 3月 29日 樺材の検査（埼玉県熊谷市）
- 5月 20日 正樹院役員会にて工事進捗状況報告 付帯工事について協議
- 5月 23日 地鎮式
- 5月 24日 基礎工事開始
- 8月 21日 石工事開始
- 10月 11日 木材加工作業所視察（滋賀県彦根市）
- 11月 4日 総代会にて上棟式の打合せ
- 12月 7日 建て方開始
- 12月 16日 上棟式
- 12月 31日 除夜の鐘お休み
- 平成19年 1月 18日 屋根銅板葺き開始
- 2月 2日 鬼瓦籠書き（奈良県天理市）
- 3月 10日 薨棟工事開始
- 3月 22日 基壇上床仕上げ
- 6月 17日 落慶法要・撞き初め式

鐘楼堂再建工事の模様

旧鐘楼の解体



樺材検品



地鎮式



原寸型板



木材切組加工



木材加工所見学



樺材は加工後に生じる狂いが大きいので、荒削りからしばらく放置して様子を見、時間を掛けて慎重に本加工を施します。

基礎工事



石工事



建て方（木工事開始）



この作業（桁組）までは釘を一本も使う事なく組み上げて行きます。



旧鐘楼の梁が屋根裏中心の部材として残されております。



上棟式



同じように見える垂木ですが、屋根が反っているため、位置毎に形の違う加工が何十種類も必要になります。



屋根裏の狭い空間に16本の丸太がパズルのように組み込まれます。これは桔木(はねぎ)と言い、艇子(てこ)の原理を応用して、長く突き出た軒先の低下を防ぐためのものです。

銅板工事

鬼瓦髷書き

瓦工事



四方4本の丸柱と8本の添え柱は、すべて内側に転がして（傾けて）あり、幾何学的な計算のもと、伝統的な社寺建築の高度な技術が注がれております。↓



↑大磯洗い出し仕上げの基壇床面と大仏様の木鼻
だいぶつよう

←梵鐘の響きをよくするために、埋め込んだ壺

旧鐘楼堂



新しい鐘楼で使用する梵鐘は、旧鐘楼で利用していたもので、昭和39年に下木崎（当時）の今井政吉様より御寄進いただきました。

（口径2尺4寸、高さ3尺6寸、重量約450kg）

◆鐘樓堂工事関係者◆

【設計・施工】	株式会社 吉匠建築工藝	東京都八王子市 棟梁 吉川 輔良
【基礎工事】	株式会社 吉水建設	東京都八王子市
【石工事】	七沢彫刻工房	神奈川県厚木市
【屋根工事】	株式会社 千葉製作所	千葉県香取郡多古町
【瓦工事】	アスカ工業株式会社	東京都江東区
【左官工事】	有限会社 和田左官工業	東京都町田市
【解体・土工事】	齊藤工業株式会社	埼玉県さいたま市
【木 材】	株式会社 Bb Wood Japan	東京都武蔵野市
【造園工事】	有限会社 松月園	埼玉県さいたま市



インターネット ブログ

◆正樹院鐘樓再建日記◆

<http://namu2006.exblog.jp/>



浄土宗 成道山 正樹院

〒330-0042 埼玉県さいたま市浦和区木崎3-4-7

TEL/048-832-5422

FAX/048-831-3680